

平成28年度

石巻市派遣職員 活動報告

- 一般事務
- 土木技術
- 建築技術

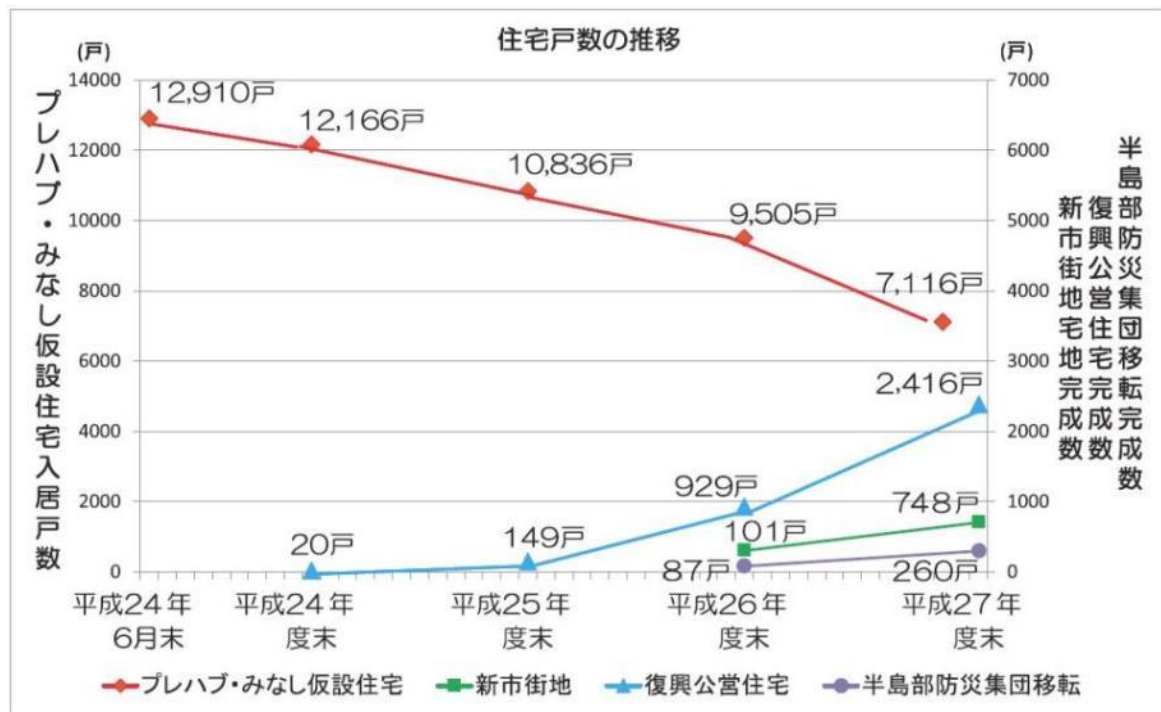


1. 復興の実現に向けて

復興状況概要

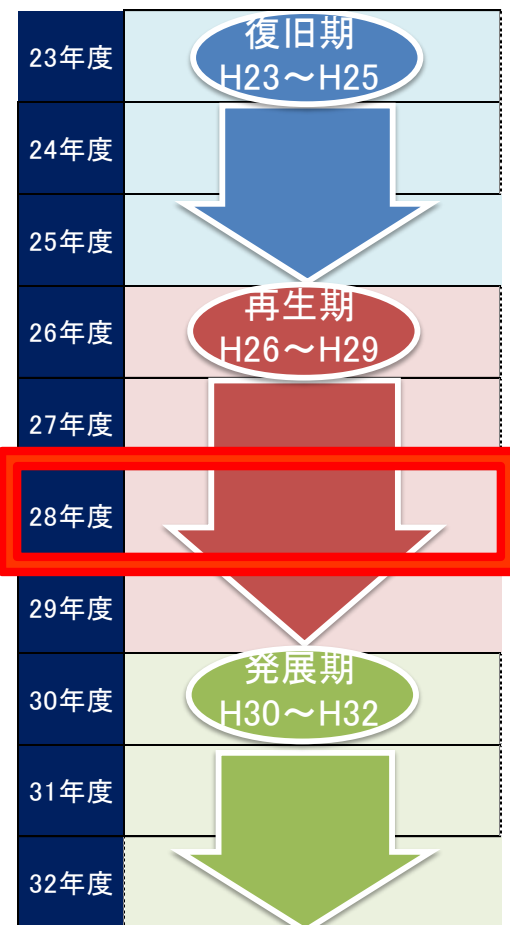
震災復興基本計画で位置づけた再生期の3年目を迎え、新たな石巻市の顔ともなる市立病院が平成28年9月に開院、復興公営住宅の整備も計画戸数（4,500戸）に対し86.2%（H28.10末時点）が工事着手済みとなるなど着実に復興へと進んでいる。

その一方で、仮設住宅から再建先への移行が滞っていることや、道路や公共施設の整備にあたって用地買収が難航し事業が止まってしまっているケースが数多く見受けられ、これからの課題ともなっている。



平成28年3月末時点

震災復興基本計画期間



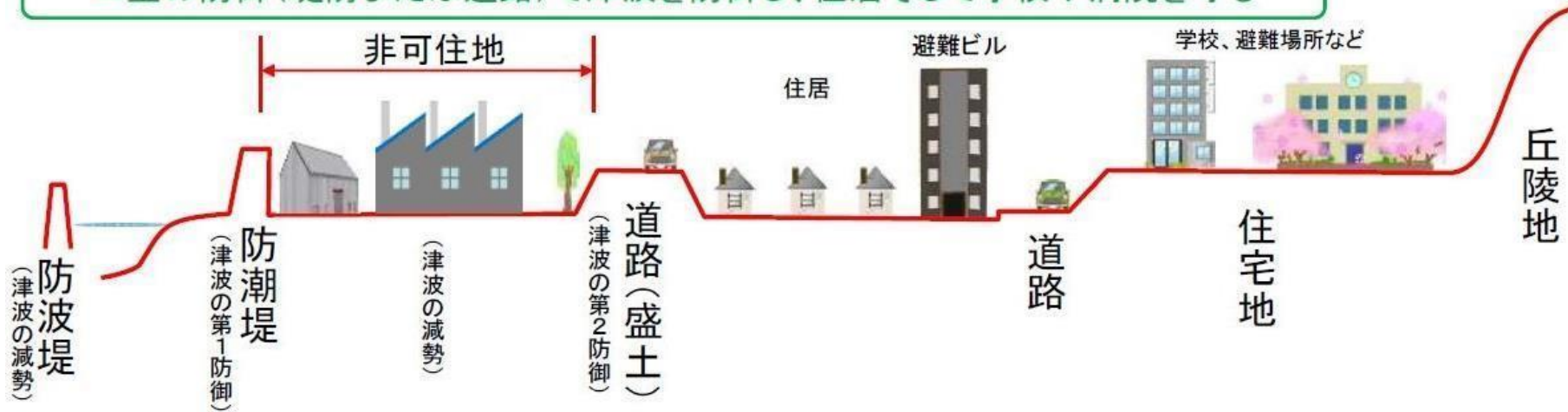
(石巻市HPより引用)

2. 復旧・復興に向けた取組状況

(石巻市HPより引用)

高台のない市街地のイメージ(主に、市街地部)

二重の防御(堤防または道路)で津波を防御し、住居そして学校や病院を守る



高台に囲まれた漁業集落のイメージ(主に、半島部)

津波の及ばない高台への住居集団移転を図り、安全安心を確保



職種：一般事務

派遣期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

配属先

平成28年度：福祉部生活再建支援課

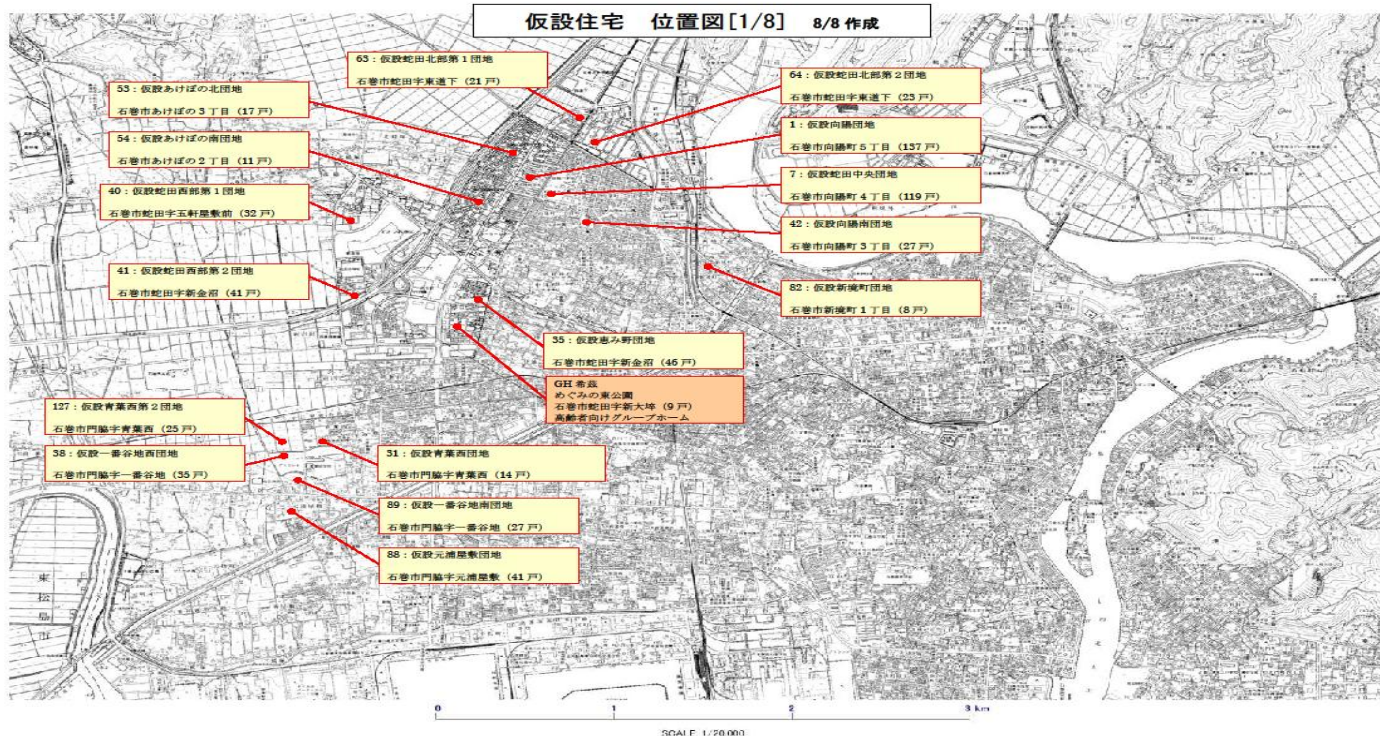
業務内容

- ・仮設住宅不適正利用者対応業務
- ・被災者情報システム管理業務

担当業務の概要

応急仮設住宅管理業務及び被災者情報システム管理業務

- 応急仮設住宅不適正利用者対応（仮設住宅返還命令、貼紙実施など）
- 被災者情報システムにおけるアンテナ移設、撤去、点検、管理



市役所周辺にある仮設住宅位置図（石巻市役所HPより）

担当業務の事例（1）

- 仮設住宅入居者生活実態調査
- 仮設住宅不適正利用者に対する返還命令通知の発出
- 仮設住宅への返還を促す戸別訪問、貼紙の実施

苦労したこと・工夫したこと

行方不明者、単身死亡者など所在・親族調査が必要なケースがあり、対応が困難な世帯があった。また、仮設住宅の集約が始まり、対応が急がれる状況であることも本業務の苦労した点であった。関係機関とも連携することにより、実態の把握に努め、各仮設入居者の状況を確認するよう努めた。



仮設に残された残置物



仮設返還を
求める貼紙

担当業務の事例（2）

- 被災者情報システムの維持管理
- 被災者情報システム用アンテナの移設、撤去

苦労したこと・工夫したこと

仮設住宅入居者の管理に使うシステムのため、システム管理には気を配った。また、仮設住宅を解体する際に本システムのアンテナ撤去を求められるため、仮設住宅集約グループとの連携を図った。



被災者情報システム専用タブレット



被災者情報システム用アンテナ

派遣業務を通じて感じたこと

震災から5年が経過し、ともすれば東京に住んでいると震災があったことを忘れてしまうことも少なくない。被災地で実際に暮らしてみても、東京と被災地との震災に対する温度差を強く感じた1年であった。

さらに業務を通じて、一口に被災者といっても置かれている状況は様々であり、制度からもれている被災市民も多い。そのような市民をどのようにして支援していくかが大きな課題であると感じた。

東日本大震災をはじめ熊本、鳥取の地震を思い起こすと、あらためてどこで大地震が起きてもおかしくないことを痛感する。東京も例外ではなく今日明日にでも地震がおきるかもしれないという意識を持つこと、また実際に地震が起きたときにどのような支援を行っていくか今から考えていくことが大事であると学んだ。



5年後



左の2枚の
写真は震災
直後及び5
年後のほぼ
同じ場所の
写真です。

職種：土木技術

派遣期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

配属先

平成28年度：建設部道路課

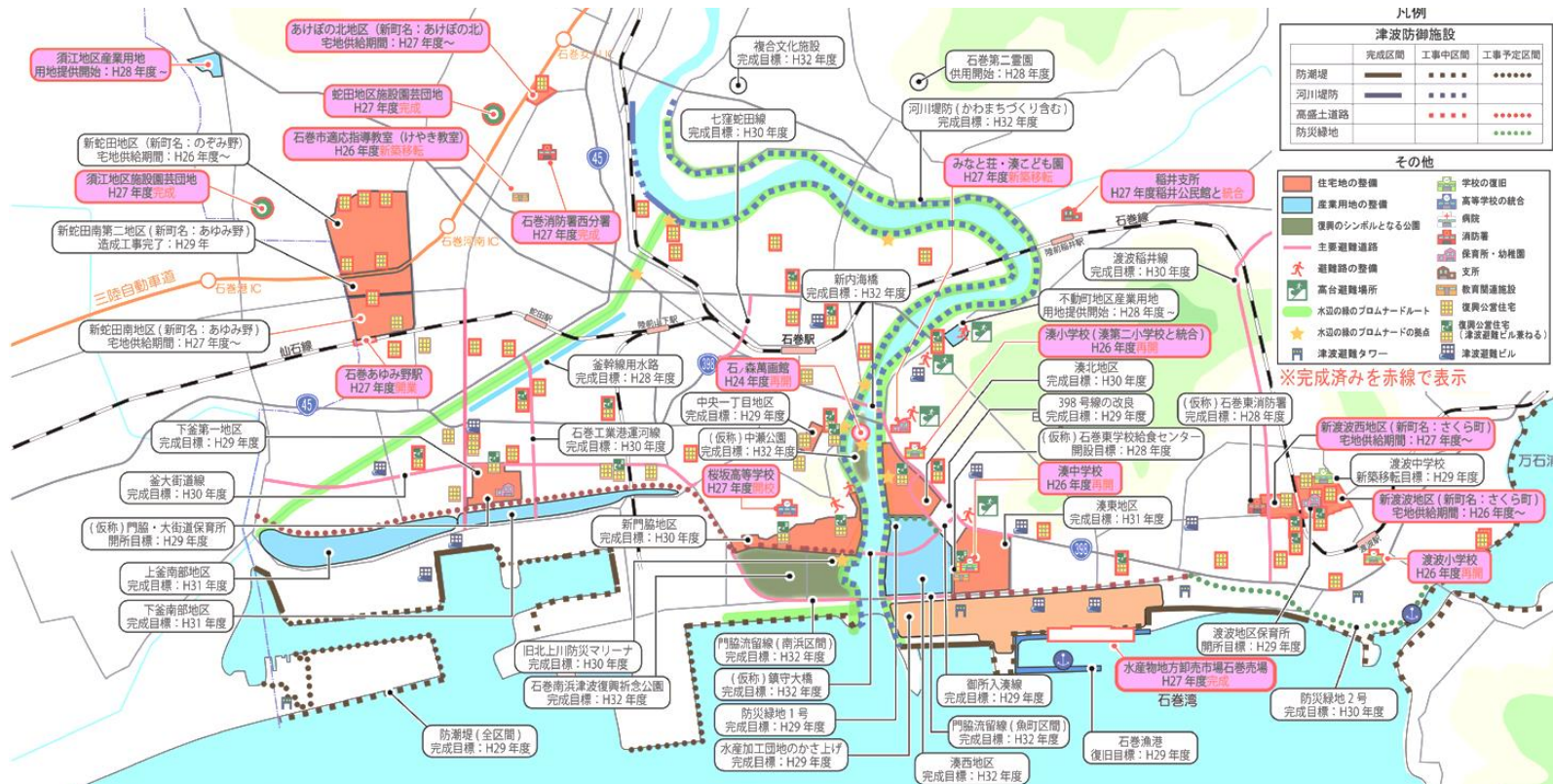
業務内容

- ・ 道路の認定・廃止・変更
- ・ 道路台帳等の管理
- ・ 復興事業等に係る道路の計画・調整

担当業務の概要

東日本大震災から5年が経過し、石巻市における復旧・復興事業はピークを迎えている。何か事業を行うとなれば、多かれ少なかれ道路課（道路や水路等）が関係してくる。そこで主な担当業務として、市役所内外を問わず、道路課に関する協議や、その完成検査等に従事している。また、それに係る告示行為等も行っている。

石巻市街地で実施されている主な事業と完成目標（平成28年8月時点）：市HPより



※この他、石巻市半島部でも多くの事業が実施されている

担当業務の事例（1）

○ H28年度 協議・完成検査等をした主な事業

- ・被災市街地復興土地区画整理事業
- ・防災集団移転促進事業
- ・地域再生拠点エリア整備事業
- ・市街地再開発事業
- ・漁業集落防災機能強化事業
- ・道路課事業（新設改良、災害復旧等）等



苦労したこと・工夫したこと

各種法令等を遵守するのはもちろんのことであるが、その中で特例値等を使う基準の統一に苦労した。

各事業によって受注者は当然違うが、担当職員も各地からの派遣職員であることが多く、石巻市としての統一性を保てるよう、グループ内で情報を細かく共有した。

完成検査においては、協議図面からではわかりにくい、安全という観点からも、現地確認を重視した。

「防災集団移転促進事業」完成検査風景

担当業務の事例（2）

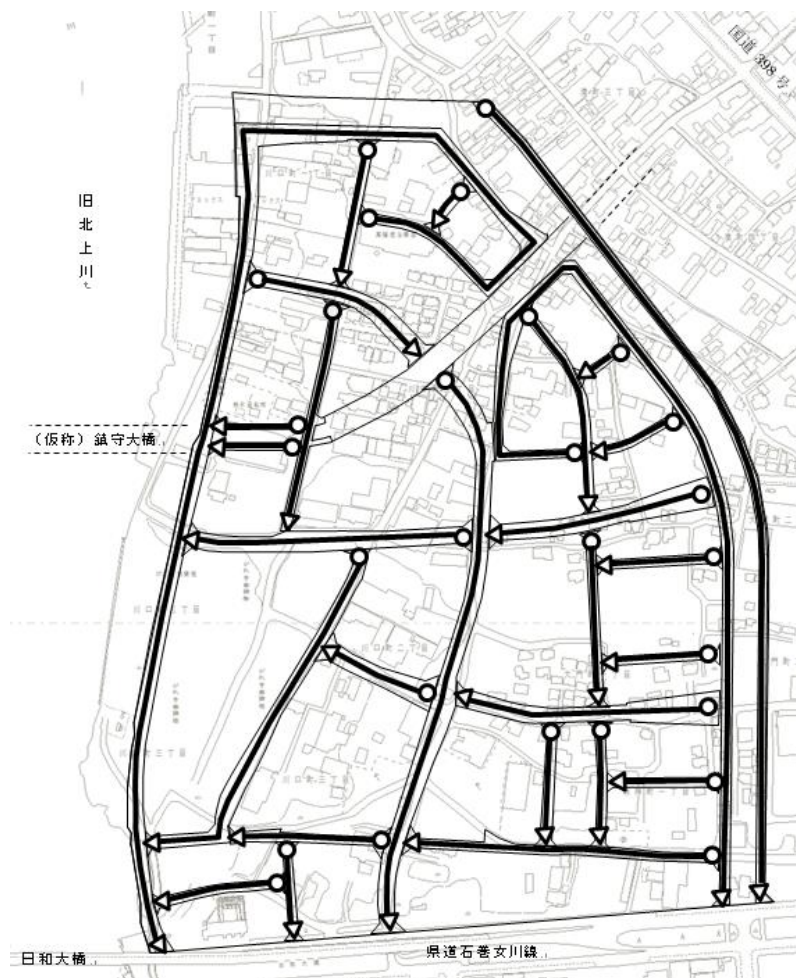
○ H28年度 道路の認定・変更・廃止（告示行為）

告示件数（平成28年11月末時点）

	石巻市	中央区 (参考)
路線認定	157件	3件
路線廃止	6件	0件
路線変更	6件	2件
区域決定	59件	4件
区域変更	65件	6件
供用開始	132件	1件

苦労したこと・工夫したこと

復興事業においては、既成市街地を区画整理することもある。被災者の自立再建優先のため、既存市道と新規市道の切り替え、供用開始のタイミング等の調整に苦労した。



被災市街地復興土地区画整理事業 湊西地区 路線認定図

派遣経験を通じて感じたこと

東日本大震災から5年が経過し、復興は大きく進んでいるように見えるが、実際に市内を見てみると、まだまだ手が付けられていない箇所も多い。“もう5年”であるが“まだ5年”であり、道路課に係る復興事業も道半ばである。

そうした中で、1年という短い期間ではあったが、派遣職員として復興事業に関わることができたことは、大きな経験となった。新しく始まる事業や現在進行中の事業、完了する事業と幅広く携わることができた。道路課には、北は群馬県から南は長崎県と、全国各地から職員が派遣されており、各地の行政事務に触れることもできた。

大きな地震が首都圏にいつきてもおかしくないといわれている昨今、ここで知り合うことのできた多くの人から、何かあったら助けに行くと言われた。また自分も同じ気持ちである。そうした出会いがあったこと、そういう気持ちを持つことができたことも、大きな財産であると感じる。石巻市で得たものを自分の職務に活かし、中央区をより魅力ある街に発展させていきたい。



左：離島（金華山）現場写真
右：ドローン撮影画像

職種：建築技術

派遣期間

平成27年4月1日～平成29年3月31日

配属先

平成27・28年度：建設部建築課

業務内容

被災公共施設の改修、設計、工事発注、工事監理

担当業務の概要

被災施設の整備（工事）

- ・石巻市水産総合振興センター
- ・石巻市夜間急患センター

防災拠点等の整備（設計及び工事）

- ・(仮称)防災センター
- ・消防団ポンプ置場（担当3件）

観光交流拠点の整備（設計）

- ・(仮称)観光交流施設(かわまち公共施設)



かわまち交流拠点エリア整備イメージ図

担当業務の事例（1）

石巻市水産総合振興センター（H26・27・28年度工事）

- ・被災した旧卸売市場管理棟及び水産物流通加工総合管理センターの機能を集約
- ・漁業者及び水産加工流通業者の事業活動の活性化に資する拠点施設

苦労したこと・工夫したこと

3ヶ年度（H27.3～H28.8）事業であり、その間に市の建築担当者が4人（内派遣職員3人）携わっており、事業の経緯や懸念事項などを引き継いでいく事に難しさや課題を感じた。

【施設概要】

鉄筋コンクリート造3階建て

延べ床面積 2,849.60㎡

平成29年1月～ 開設予定

<主要室>

1階：情報資料室、食堂、厨房、購買

2階：貸事務室（12室）、試験分析・加工実習室

3階：会議室（大・中・小）、調理実習室、浴室、備蓄倉庫、管理室



担当業務の事例（2）

(仮称)防災センター（H27・28年度設計、H28・29年度工事予定）

- ・石巻駅前の津波復興拠点として災害対策の中核となる施設の設計。
- ・災害時に機能を停止することなく防災活動を行えるよう免震構造を採用。
- ・隣接する石巻市役所と連絡通路で接続し、迅速な災害対応を可能とする。

苦労したこと・工夫したこと

平常時と災害時の各部屋の使い方が変わり2面性のある施設となるため、それぞれの状況に対応した設計とすることに多くの調整を要した。

(仮称)ささえあいセンター

市役所

(仮称)防災センター

石巻市立病院

石巻駅前周辺イメージ図

【施設概要】

鉄筋コンクリート造3階建て（中間免震構造）
延べ床面積 1,737.33㎡

(仮称)防災センターイメージ図



派遣経験を通じて感じたこと

さまざまな復旧・復興事業に関わらせて頂いており、派遣職員という立場であると同時に1人の石巻市職員として、大きな責任とやりがいを感じている。

震災から5年経った今でも、建築課として数多くの公共施設の設計や工事を同時に進めているため、担当一人ひとりの業務の詳細を上司が全て把握しきることはとても困難であり、担当にゆだねられている部分が大きくなってしまっている。今後、さらに復興が進み派遣職員がいなくなり震災前の職員数に戻っていった時に、残っている職員で当時の状況などを説明できるようにより丁寧な資料をつくる事が必要であると思う。



石巻市夜間急患センター開所式の様子(H28.12.1)



石巻市夜間急患センター待合室